

【正の数をかけること】(教科書 P.33 から P.34 まで)

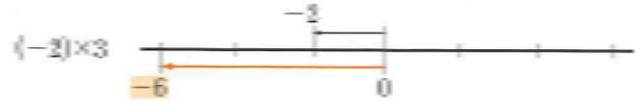
(正の数) × (正の数)

例 $2 \times 3 = 2 + 2 + 2$
 $= 6$



(負の数) × (正の数)

例 $-2 \times 3 = (-2) + (-2) + (-2)$
 $= -6$



※ この -6 は、 $-(2 \times 3)$ に等しくなる

☆ (負の数) × (正の数) は、絶対値の積に負の符号をつける

(例) $(-4) \times 6 = -(4 \times 6)$
 $= -24$

P.33 問 1 を解く

(1) $(-3) \times 7$

(2) $(-6) \times 8$

(3) $(-12) \times 6$

(正の数) × (負の数) について考えよう!

例 $(+2) \times (-3)$

右の図のように、かける数が正の数るときから考え、3, 2, 1 と 1 ずつ小さくしていくと、積は ずつ小さくなっていきます。そして、かける数が 0 のときは、 $(+2) \times 0 = 0$ となり、かける数をさらに 1 小さくした $(+2) \times (-1)$ は、0 より 2 小さく、 であると考えられる。

このようにしていくと、次のように考えられる。

$(+2) \times (-1) = \text{} \dots\dots - (2 \times 1)$
 $(+2) \times (-2) = \text{} \dots\dots - (2 \times 2)$
 $(+2) \times (-3) = \text{} \dots\dots - (2 \times 3)$

☆ (正の数) × (負の数) は、絶対値の積に負の符号をつける



$(+2) \times (+3) = +6$
 $(+2) \times (+2) = +4$
 $(+2) \times (+1) = +2$
 $(+2) \times 0 = 0$
 $(+2) \times (-1) = \text{~~~~~}$
 $(+2) \times (-2) = \text{~~~~~}$
 $(+2) \times (-3) = \text{~~~~~}$

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad 7 \times (-5) &= - (7 \times 5) \\ &= -35 \end{aligned}$$

P.34 問 2 を解く

(1) $5 \times (-6)$

(2) $9 \times (-8)$

(3) $10 \times (-10)$

ワーク ㉠P. 14 1